福島県中学校長会広報

・会長挨拶「令和５年度を振り返って」…… １
・学校教育の今日的課題…… ２
・令和５年度中学校長会の歩みと成果…… ３
・専門部会活動の概要（行財政部会・研究部会・進路指導部会・生徒指導部会・広報部会）… ４～５
・第74回全日中研究協議会大分大会の概要 …… ６
・第73回東北地区中研究協議会福島大会の概要 …… ６
・小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告…… ６～７
・令和6年度全日中(東北地区中)研究協議会岩手大会の概要 … ７
・支会情報と特色ある経営（安達・田村・南会津・相馬）…… ８～１１
・随想「交流はまず足元から」…… １２

令和５年度を振り返って

福島県中学校長会会長　福　地　裕　之
（福島市立福島第四中学校）

はじめに、１月１日に発生した能登半島地震により犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞申し上げます。被災地域の安全と各学校において「学校が復旧・復興の活力源となる」よう衷心よりお祈り申し上げます。東日本大震災から13年、福島県と同様な状況に置かれている地域（学校）を勇気づけられるのは私たちなのではないでしょうか。

さて、令和４年度から12年度までの本県教育の基本方針となる第７次福島県総合教育計画が策定されました。「学びの改革」を柱として掲げられています。最近、よく目にするワードに「変革」「改革」があります。教育界においても、学びの変革、学校の在り方の変革、働き方改革、部活動改革などがあります。

一方、令和５年６月16日に閣議決定された教育振興基本計画においては、教育の不易と流行、将来の予測が困難な時代の教育の羅針盤として、持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上を２つのコンセプトとしています。

そこで、県中学校長会としては、「組織と機能の充実」「情報交換」「連携」の活動方針のもと、各専門部会において、改変すべきところを定め、教育の大切なところを大事にしながら、将来を見据え、それぞれがよりよい方向へ向かいました。

今年度、それぞれの専門部会で変えた主なポイントは次のとおりです。

行財政部会
○　要望活動の項目を絞るため、調査内容を精選し、要望内容の焦点化を図った。

研究部会
○　研究集録に「ふくしまの今」を掲載した。
○　東北地区中学校長会福島大会において、ハイブリッド型での開催とした。

進路指導部会
○　調査の一部をGoogleフォーム化した。
○　「中学生活と進路」をカラー化した。

生徒指導部会
○　生徒指導上の諸問題に関する調査の中に新しい調査項目（不登校・いじめ対応、校則見直し）を入れた。

広報部会
○　福島県中学校長会広報において、形式・内容等を工夫した。

以上のように、県中学校長会と各支会中学校長会、各中学校がウェルビーイングとなるよう推進してまいりました。

今年度、予定していた行事をほぼ実施できましたが、その中で全日中大分大会で心に残った言葉や様子を紹介して締めくくらせていただきます。

○　実況中継は筋書きのないドラマである。その一瞬にどう言葉を発するのか！学校も同じではないか。（記念講演から）
○　大分県の校長先生方の一つ一つのふるまいがすばらしかった。参集しての大会はやはり意義深かった。（参加者の感想から）

終わりに、本会を支えていただいた副会長、理事、支会長の皆様をはじめ、会員の皆様、各部会長、幹事、事務局員に感謝申し上げるとともに、それぞれに敬意を表します。誠にありがとうございました。

学校教育の今日的課題

―「不登校児童生徒の増加」と「特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加」への対応を早期からの就学支援で考える―

福島県中学校長会副会長　熊澤　正人
（伊達市立桃陵中学校）

不登校児童生徒数の増加が止まりません。

令和４年度の小中学校における不登校者数が過去最多の29万9,048人となりました。前年比5万4,108人（22.1％）の増加です。不登校者数は10年連続で増加しています。一方、文部科学省は令和４年12月13日に「学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合」が、小学校・中学校においては推定値8.8％であると公表しました。平成24年に行った調査においては推定値6.5％でした。

さて、本校においても不登校生徒は、毎年増加の一途をたどり、割合は全国平均よりも高くなっています。これを受け本年度より、学校独自にSSRを設立し、欠席日数が30日を超える生徒の減少につなげています。しかし、根本的な不登校の解決には至っていないのが現状です。

また、本校の場合、特別支援学級入級適の判断を受けながら通常学級に在籍している生徒が多くいます。そうした生徒が不登校に至るケースも目立ってきました。

ところで、県内Ａ市では、特に中学校の不登校生徒数の割合が全国平均の5.98％より高くなっており、様々な手立てを講じてきました。そうした折、他県で先進的な取り組みを指導されている市政アドバイザーの助言を受け、取り組みを視察するなどして、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加や不登校児童生徒数とりわけ中学校で不登校が多く出現する要因を洗い出したそうです。

①就学前の保護者の養育や子どもの生育について問題の発見や相談・解決への体制が十分ではないこと。

②就学前の就学指導について、保護者の十分な理解が得られていないこと。

③小学校入学時に、適切な就学の環境が整わず、子どもの自己肯定感が下がり、二次障がいが起こる可能性が高くなること。

④中学校入学後は思春期の始まりとも相まって、学習困難、周囲と意思疎通を図ることへの苦手意識、ゲーム等への依存などが出てくること。

Ａ市では、早速「子育て・就学」相談支援事業を立ち上げ、次の４つの取り組みを市内全小中学校、さらには、幼稚園・こども園・保育園などの理解や協力のもとに、全市をあげて推進しています。

【取組１】就学先相談支援

新学齢児に対する「就学前学校生活適応検査」（集団知能検査）を早めに行い、適正就学に向けた子育て・教育相談を実施。

【取組２】年中児からの就学前子育て支援

こども園等との連携により、年中児の保護者との相談等による早期からの切れ目のない子育て相談と必要に応じた関係機関との連携を促進。

【取組３】相談支援員による園訪問支援

相談支援員が園を訪問し、保護者や教員に「早寝・早起き・朝ごはん」等、子どもの基本的な生活習慣の形成に必要なことを啓発。

【取組４】相談支援員による学校支援

相談支援員が学校を訪問し、望ましい特別支援教育の在り方を指導助言及び就学指導対象児童生徒の追跡支援。

Ａ市での取り組みはまだ始まったばかりですが、すでに就学前の保護者の意識にも変化が出てきているそうです。「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを再認識するとともに、子どもの安易なメディア接触にも気を配るようになってきたとのことでした。小中学校では、受け皿としての特別支援学級の指導の充実が進んでいます。特に学校管理職の特別支援教育への理解が進んでいます。先ほどの市政アドバイザーは、東北のある市で、望ましい養育態度やメディアの規制など10年以上に渡って指導を継続しています。その結果、学校で暴れたり、不適応を起こしたりする子どもが減少し、特に中学校での不登校の割合が２％以下になったと話されていました。

本県においてＡ市以外にも取り組みを準備しているところがあるようです。成果を期待し、全県に取り組みが広がることを願っています。

令和５年度「中学校長会の歩みと成果」

福島県中学校長会事務局長　板橋　竜男
（福島市立福島第一中学校長）

今年度５月に新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが変わり、行動制限はほとんどなくなりました。それにともない、校長会の取り組みも従来の参集型での会議を行うことができました。移動時間のないオンライン会議もそれなりのよさもありますが、実際に顔を合わせて行われる会議の場では、休憩中も情報交換するなど盛り上がり、活発な議論がなされました。

そして、実際に会って話をしてみると、それぞれの立場で、支会で、様々な課題があり、その課題に対して校長会が情報を共有し、解決の方法を考え、行政とともに解決しようと努力していることがうかがえました。

以下の項目は、今年度、各支会長・理事が集まった理事会で話題になったものです。

・働き方改革（欠席連絡の仕方、休日など留守電等の利用、SSSの雇用なども含む）について
・教員不足への対応（欠員、病休補充、産休補充なども含む）について
・不登校など生徒指導の課題解決について
・研修（中教研、研修履歴も含む）について
・生成AIなど新たなICT教育への対応について
・部活動の地域移行（学校の部活動の在り方や部活動の数の適正化なども含む）について
・校則や生徒心得の見直しについて
・進路指導（奨学生、スポーツ特待、WEB出願や三者面談の時期なども含む）について
・学校施設（校内の冷暖房等も含む）について
・熱中症や感染症対策について
・学力向上（全国学力・学習状況調査等も含む）について
・昇任（各支会の学習会も含む）について
・教頭の働き方改革について
・生徒の健康（肥満等も含む）について

この他にもたくさんの話題がありましたが、どれも直ぐに解決できる方策があるわけではなく、各支会や学校での対策を聞きながら、方法を共有していきました。特に部活動の地域移行や校則の見直し、休日の留守電などによる働き方改革については積極的に進めている支会の話を聞いて、それぞれの支会での協議の話題にし、校長としてどのように関わることが必要なのかを考えることができました。

他にも参集型の会議は理事会だけでなく、各専門委員会でも実施されました。小学校長会と一緒に行った要望活動でも行政や議員の方々に直接会って話をすることができました。

行財政部会での資料等をもとに、要望書の骨子をつくり、７月の退職校長会が主催した懇談会で、要望についての内容を共有してまとめていきました。そして、９月５日の要望活動では、県議会議員、市町村長、教育委員会教育長に、各種加配の継続や教育環境の整備などの「義務教育の充実・振興について」、人事委員会においては人材確保のための「教職員の給与改善等について」要望を行うことができました。

また、８月と１月には、各種学校関係団体（小中学校教頭会、学校保健会養護教諭部会、学校給食栄養士部会、小中学校事務研究会）の会長、副会長等と懇談し、それぞれの団体での課題について校長会と共有することができました。

どの団体でも人材が不足していること、若手の教職員への研修の在り方、多忙化解消を目的とした働き方改革、少子化や統合に伴う組織の弱体化や活動の縮小など、多くの課題があげられました。

これらの課題については、今後、校長会等で確認し、要望活動や各種懇談会等での話題にしていきたいと思います。

「校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。」このためにも、学校としてなすべき業務を把握し、その遂行のためにも、今ある様々な課題について一つ一つ解決するための方策を私たち校長会で考え、実践、そして共有して、子どもたち、教職員を支えていきたいと思います。今年度もご協力ありがとうございました。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小・中校長会の活動方針や１学期に実施した各種調査の結果を踏まえ、教育行政上の課題解決のために調査研究や要望活動を行い、組織的・継続的な活動を推進しました。

１　活動の重点

○　多様な教育活動に対応するための教育条件の整備・充実
○　教職員の待遇改善と福利厚生の向上
○　当面する重要課題の調査研究と課題解決

２　調査研究活動

⑴　令和６年度「教職員人事の反省」（３学期）
⑵　調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
⑶　調査Ⅱ：教育施策の実施状況に関する調査
⑷　特別調査：大震災・原子力災害や感染症の影響に関する調査

３　要望活動

福地裕之県中学校長会長、佐藤浩昭県小学校長会長を中心とした組織で、９月５日に要望活動を行いました。

⑴　面談（要望内容説明）
　①　福島県人事委員会
　②　県議会議員政党等
⑵　要望書届け
　①　福島県市長会、町村長会
　②　福島県町村議会議長会、市議会議長会
　③　市町村教育委員会、都市教育長会、町村教育長会の代表機関等
⑶　主な要望事項
　①　教職員の配置・加配について
　②　教員の採用、研修の拡充について
　③　特にＳＳＷの継続配置について
　④　特別支援教育の理念に基づく教育施策の拡充について

４　教育懇談等

関係機関と懇談し現状の説明等を行いました。

⑴　福島県公立学校退職校長会（７月３日）
⑵　福島県教育庁関係者との懇談会（８月18日）

（行財政部会長　渡部　正晴）

● 研 究 部 会 ●

１　共通理解に基づく共同研究の推進

昨年度からの研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を指標とした８小主題について「研究の手引き」を活用しながら、各支会・各学校の実態に即して研究を推進しました。

県中学校長会研究協議会を兼ねた東北地区中研福島大会を会津若松市を会場にハイブリッド型で開催し、全会員参加により、校長としての識見を高めることができました。

２　研究集録の編集及び刊行

研究主題に基づく調査研究の充実、資料や情報の提供を目的とし、各支会における研究の成果を収めた「研究集録」を全会員に配付し成果を共有することができました。

３　全日中、東北地区中との連携

東北地区中学校長会研究協議会福島大会がハイブリッド型で開催され、第Ⅱ分科会において田村支会が道徳教育に関する研究成果を発表しました。また全日本中学校長会研究協議会大分大会は４年ぶりに参集型で開催され、本県から32名が参加して情報交換等を行いました。

４　原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の発信

福島の現状を記録し累積するために、研究集録の中に、「ふくしまの今～双葉支会の現状～」を継続して掲載するとともに、福島県の課題である「放射線教育」についても掲載し、全会員での共有を図りました。

（研究部会長　湯田　公夫）

● 進路指導部会 ●

１　今年度の主な活動

○　「中学生活と進路」の編集
　県版のオールカラー化に向けての編集作業を行いました。
○　高等学校入学者選抜方法等の改善に向けた高等学校や関係機関との連携
　「進路指導に関する調査」の集計等の情報をもとに、入学者選抜事務調整会議において、中学校の立場から提言をしました。調査書記入用の「県大会以上の主な大会及びコンクール等略称一覧」については、各支会からの情報提供により改定を行い、高等学校長協会と連携を図りました。
○　諸調査の実施と資料の提供
　進路動向調査（９月・12月）を実施し、情報提供を行いました。進路指導に関する調査（その１・その２）は、Googleフォームを活用して支会での集約の負担を軽減して実施しました。

２　成果や課題等

○　入学者選抜事務調整会議においては、北塩原村の共通区への変更の方向性が示される等の成果が得られました。しかし、前期選抜の合格発表時に特色選抜と一般選抜のどちらの

合格なのかが、中学校では受験をした生徒からの聞き取りによる方法しかない現状から前進させることはできませんでした。継続した課題として、解決に向けて努めたいと思います。

○　キャリ教育代表者研修会の情報等を活用し、「社会を生き抜く力」を育成するキャリア教育が推進できるよう、「中学生活と進路」の効果的な活用について、事例の研究や紹介等を進めていきたいと考えています。

（進路指導部会長　阿部　洋己）

● 生徒指導部会 ●

１　自己指導能力の育成と規範意識の向上

各学校では、校長がリーダーシップを発揮し、授業や行事等の創意工夫を図ることで、自己存在感を与え、共感的な人間関係を構築し、自己指導能力を育成する教育活動が展開されました。ネットトラブル等の課題に対しても、生徒指導の機能を生かして、安全・安心な風土の醸成を図り、規範意識を高める指導を実践しました。

２　生徒指導上の諸問題、その解決や未然防止

６月に「生徒指導上の諸問題に関する調査」を実施しました。過去６年間の経年変化に着目し、学校対応の変遷や生徒の実態について数値化を図り、分析・考察しました。

不登校は、年々増加傾向にあり、過去最多となりました。対策に行き詰まっている事例も見られ、関係機関との連携を一層強化する必要があります。いじめは、初期段階で積極的に認知しようとする姿勢を継続するとともに、生徒間の接触・関わりの様子を注意深く観察することが求められます。虐待は、約３割の学校から報告されており、どの学校でも起こる問題としてとらえ、チーム学校として対応する必要があります。反社会的行動は家出が増加しており、ＳＮＳを介した交友関係の拡大に伴う問題行動への対策が求められます。ネット利用は、保護者の危機意識の差が大きく、ネット環境の管理が徹底できない家庭に対して、打開策が見いだせない状況にあります。ネット依存に関する相談機関や医療機関の整備、社会全体で構築する安全なネット環境等、子どもを守る対策を講じる必要があります。他にも、数値には現れない困難な状況も報告されていることから、県全体で共有し早急に対策を講じる必要があります。

３　小学校及び高等学校、関係機関等との連携

小・中学校、高等学校の連携は年々強化され、学習者用タブレットの使用、校則の見直し、性に関する課題等の今日的な課題に関して、関係機関の協力を得ながら、地域と一体となった指導・協力体制が構築されています。

４　生徒手帳の編集、刊行

令和６年度版「生徒手帳」は、編集委員を中心として編集、刊行することができました。

（生徒指導部会長　鈴木　豊）

● 広 報 部 会 ●

本年度の広報部会は、広報誌を年２回発行するとともに、ホームページの維持・管理、要望活動等の記録活動を行いました。広報誌については、会員の皆様に役立つ情報、興味をもって読んでいただける内容を目標に紙面づくりを工夫してきました。校長先生方の思いや願い、各支会・各部会の活動の特色や工夫が伝わる広報誌ではなかったでしょうか。次年度も更に読み応えのある広報誌発行を目指していきたいと思います。ご多用の中、原稿執筆を快く引き受けてくださった校長先生方ありがとうございました。

【主な活動内容】

１　広報誌　第170号（７月１日発行）

○　会長就任の挨拶（福地裕之会長）
○　県中学校長会総会の概要及び組織
○　学校教育の今日的課題（玉澤　淳副会長）
○　令和５年度の活動と運営（板橋竜男事務局長）
○　各専門部活動の概要
○　第74回全日中総会報告
○　支会情報と特色ある経営
（福島・東西しらかわ・両沼・双葉）
○　新会員紹介及び新会員の声
○　随想（早﨑保夫副会長）

２　広報誌　第171号（３月１日発行）

○　令和５年度を振り返って（福地裕之会長）
○　学校教育の今日的課題（熊澤正人副会長）
○　令和５年度県中学校長会の歩みと成果
（板橋竜男事務局長）
○　各専門部活動の概要
○　第74回全日中研大分大会の概要
○　第73回東北地区中研福島大会の概要
○　小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告
○　令和６年度県中学校長会主要行事予定
○　令和６年度全日中（東北地区中）研究協議会岩手大会の概要
○　支会情報と特色ある経営
（安達・田村・南会津・相馬）
○　随想（長谷川浩文副会長）

３　記録活動（今年度中学校担当）

○　退職校長会との懇談会　７月３日(月)
○　県教育庁との懇談会　８月18日(金)
○　要望活動（教育予算・教育人事）
９月５日(火)

（広報部会長　井上　明浩）

第74回全日中研究協議会 大分大会の概要

全日中研究協議会が、10月25日㈬～27日㈮の３日間、大分県別府市を会場とし、久しぶりに参集型での開催となりました。本県からは、福地裕之会長をはじめ、事務局と各支会からの代表など、計32名が参加しました。

＜主な日程と内容等＞

第１日　10月25日㈬

全日中常任理事会・理事会　福地裕之会長出席

第２日　10月26日㈭

開会式・文部科学省説明・全体協議会・分科会

第３日　10月27日㈮

アトラクション・全体会・記念講演・閉会式

今の社会が様々な面で変化し、これから生きていく子どもたちには、その変化の中で考え、行動して生きていかなければならない状況であり、そのために私たち中学校校長はどのようにしなければならないか…。それぞれの都道府県ごとに課題があり、どのように教育にあたらなければならないか考えることができました。また、記念講演の内容も素晴らしく、今の子どもたちを取り巻く状況や指導の在り方について示唆をいただいた内容でした。詳しくは全日中広報「中学校」844号に掲載されています。

＜まとめ＞

参集型の研修会でしたが、各県の校長との懇談は、研修内容以外にも情報交換が行われ、有意義な協議会となりました。特に人材確保、働き方改革、部活動…行政とのかかわりなども含め、これからの校長会の方向性なども考えさせられる内容でした。なお、令和６年度は、東北地区中研究協議会と兼ねての岩手大会となりますので、多くの参加者とともに研修していきたいと思います。

第73回東北地区中研究協議会 福島大会の概要

東北地区中研究協議会が６月29日㈭～30日㈮の２日間、会津若松市ワシントンホテルをホスト会場として行われました。今回は、参集型とオンライン型のハイブリッドでの開催となりました。

＜主な日程と内容等＞

第１日　６月29日㈭

東北地区中理事会・レセプション

第２日　６月30日㈮

開会行事・記念講演・研究協議会・閉会行事

研究協議会ではその場に参加された方とオンライン参加の方での質疑応答やグループ協議を通して活発な意見交換が行われました。

また、記念講演での、PwCコンサルティング合同会社マネージャー高橋洋平氏の話は、震災やコロナなど様々な困難に対して、どのようにとらえ、学校経営、教育活動を進めていけばよいか、大いに参考になるものでした。特に先生方の思考、バイアスをいかにアンラーンして、これからの子どもたちの教育に携わればよいのか考えさせられました。

＜まとめ＞

ハイブリッド形式での開催でしたが、東北地区ほとんどの校長が参加して協議するなど、参集型、オンライン型でのそれぞれのよさが生かされた大会でした。特に、記念講演については、東北にゆかりのある講演者であり、講演後、資料や講演記録を求める先生方も多く、実り多い大会となりました。

●小・中学校合同理事会報告●

今年度は、年間を通して計４回の合同理事会をすべて参集により開催しました。各合同理事会の日程・会場・内容は次の通りです。

第１回：６月９日㈮　福島グリーンパレス

・　令和５年度組織、各種調査について
・　令和５年度人事の反省
・　令和５年度要望活動、教育懇談会　等

第２回：８月18日㈮　福島グリーンパレス

・　令和５年度行財政部(会)諸調査報告
・　各種団体との教育懇談会について
・　令和５年度要望活動、教育懇談会　等

第３回：12月１日㈮　パルセいいざか
・　令和５年度要望活動の報告
・　令和６年度行財政調査について
・　退職役員感謝状贈呈式・感謝会について
・　令和６年度主要行事予定について　等

第４回：２月22日㈭　福島グリーンパレス
・　令和６年度教職員人事の反省について
・　令和６年度合同開会式、行事予定　等

また、第２回合同理事会後には、県教育長及び教育庁職員との教育懇談会も実施しました。

●中学校理事会報告●

年間を通して開催した理事会の日程、会場、主な議事は次の通りです。

第１回：４月19日㈬　パルセいいざか
・　県中学校長会総会提案事項について
　東北地区中研究協議会福島大会　他

第２回：６月９日㈮　福島グリーンパレス
・　全日中総会及び理事会より
　各部会の活動について　他

第３回：８月18日㈮　福島グリーンパレス
・　東北地区中理事会及び全日中の動きについて、各部会の活動報告　他

第４回：12月１日㈮　パルセいいざか
・　全日中理事会報告、今年度の要望活動
　今年度末役職定年退職予定者　他

第５回：２月22日㈭　福島グリーンパレス
・　事業報告、会計決算中間報告、次年度総会及び第１回理事会運営について

各理事会においては、各支会の現状と課題について協議及び情報交換を行いました。また、県中教研会長及び県中体連会長から、現状や今後の予定等についてお話をいただきました。

令和６年度県中学校長会主要行事予定

〔県、東北地区中、全日中関係〕

月	日	県　関　係	東北地区中・全日中関係
4	10	合同事務局会①	
	17	総会・理事会①	
5	7	行財政部合同部会長会①	
	8	研究部会長会①	
	17	生徒指導部会長会①	
	20	進路指導部会長会①	
	22		全日中理事会①
	23		全日中総会（～24）
	29	合同事務局会②	
6	14	合同理事会①、理事会②	
	28		東北地区中副会長会①･理事会①
7	2	行財政部合同代表部会長会① 広報第172号発行	
8	5	合同事務局会③	
	19	合同理事会②、理事会③ 県教育庁との懇談会	
9		要望活動	
10	16		全日中理事会②
	17		全日中研究協議会岩手大会(～18)
	21	進路指導部会長会②	
11	12	研究部会長会②	
	14	生徒指導部合同部会長会① 生徒指導部会長会②	
	25	合同事務局会④	
12	2	合同理事会③、理事会④	
1	17		全日中WEB理事会③
	22	研究部代表部会長会①	
	28	進路指導部代表部会長会①	
	30	生徒指導部代表部会長会①	
	31		東北地区中副会長会･理事会②
2	4	合同事務局会⑤	
	6	行財政部合同部会長会②	
	20	合同理事会④､理事会⑤(～21)	
3	14	会計監査 広報第173号発行	

令和６年度全日中(東北地区中)研究協議会岩手大会概要

第75回全日本中学校長会研究協議会が岩手県の盛岡市で開催されます。本大会は、東北地区中研を兼ねています。

１　期　日
◇　令和６年10月16日㈬～18日㈮

２　会　場
◇　ホテルメトロポリタン盛岡　他

３　大会主題
「新たな時代を切り拓き､よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

４　主な内容
10月16日㈬：常任理事会、理事会、レセプション
10月17日㈭：文科省説明、研究協議会
10月18日㈮：記念講演
※　講演者　本間　希樹　氏
　国立天文台水沢ＶＬＢＩ観測所所長

５　その他
東北地区中研としては宮城大会、福島大会とハイブリッド型の参加が続きましたが、第74回岩手大会は久しぶりに参集による参加となります。本県からは会員の半数が参加することとなります。

支会情報と特色ある経営

安　達

安達支会の活動

安達支会長　遠藤　幸栄
（二本松市立安達中学校）

安達支会は、二本松市、本宮市、大玉村の11の中学校長で構成されています。今年度は地区内異動が３名、新会員も３名、内２名が新任という状況での組織となりました。各市村の教育施策を踏まえながら、会員相互の親睦を図り、また小学校長や高等学校長との連携も図りながら、地域の実情に応じた学校経営の充実に取り組んでいます。

１　定例校長会の開催

各学校の経営上の成果や課題、県理事会や各専門部の活動報告などを踏まえて、安達地区内中学校全体のこととして情報交換や改善策の協議を行い、各校の経営に生かしています。

また、昨年に続き「カリキュラムマネジメントの推進」に向けて、研究を進めています。

２　退職校長会との連携

退職校長会の皆様と現職校長会の会員が、グループ毎に教育課題にかかわる協議を行った後、懇親会で和やかに語り合いました。

３　安達地区中学校高等学校長協議会の開催

地区内の３つの高等学校長と全中学校長で情報交換を行いました。今年も新鮮で有意義な情報が得られました。

４　安達地区小中学校長会協議会、各市村校長会との連携

役員会や総会、懇談会などにおいて、地区内の課題や小中連携などについて検討したり、各市村の役員と情報交換を進めたりして、各校の運営に役立てています。

その他、地区内中学校全体の充実・発展という視点を大切にし、各種団体とのつながりを強化しています。特に中教研については、会員数減少に歯止めをかけるべく、先輩方が築いた安達ならではの工夫を強みととらえ、全11名の校長が車座になって知恵を絞っております。

《学校紹介》

「地域とともにある学校」として

二本松市立二本松第三中学校

智恵子抄で「ほんとの空がある」と詠まれた安達太良山を望む高台にある本校は、広い学区、豊かな自然に恵まれ、素直な生徒と日々の教育活動を行っています。周囲に人家もなく、学区に４つ小学校があることもあり、地域とのつながりをもちにくい環境に立地しています。そこにコロナ禍が追い打ちをかけ、伝統行事であった安達太良登山や文化祭でのPTA炊き出しもなくなりました。寂しい面もありますが、時代の変化もあり、復活は難しい状況にあります。

創立42年目の中で、変わらずに継承されてきているのが応援団です。多くの学校が、担い手不足や行事削減を理由に廃止されました。本校は、男女合わせて25名が応援団員として選手壮行会や文化祭等で演舞を披露します。その姿に憧れをもち、応援団に入る生徒も少なくないようです。

文化祭での応援団演舞披露

来年度から、コミュニティ・スクールに指定されることもあり、新たな地域との連携と生徒の地域活動への参加を模索しているところです。地域の行事での担い手不足が叫ばれている中、ボランティア活動や夏祭り等の運営を手伝い、将来地域に残って活動を行えるような人材を育成していくことが必要だと感じています。様々な体験ができるよう、生徒とともに行事の見直しや地域との連携が図れるように取り組んでいます。

（校長　齋藤　直）

田　村

田村支会の活動

田村支会長　**渡辺　和也**
（三春町立三春中学校）

田村支会は、田村市６校、三春町２校、小野町１校の計９校で組織されています。小学校は14校で、緊密に連携を図りながら、主に下記の活動を行っています。郡山市に隣接する岩江中から、東側に位置する都路中、東南の小野中まで距離はありますが、とても雰囲気がよくスクラムを組んでいます。

１　小・中合同全体研修会

学校経営に係る校長としての資質向上を目的に、年間４回実施しています。

２　小・中学校別研修会

学習指導、生徒指導、進路指導等について各学校の実践や成果、課題などを共有し自校運営の課題解決に生かしています。

３　新任校長研修会

年２回、小中の役員から新任校長へ、心構えや各校の課題、教職員人事などについて助言をしています。ちょっとした悩み等の相談にも応じて、とても意義のある研修会です。

４　学校課題への取り組み

⑴　教員の働き方改革への対応

校務支援システムの活用や諸会議のもち方等について情報交換して進めています。働きがいのある、あたたかみのある学校経営を目指しています。

⑵　部活動地域移行への対応

市町により違いがあり、情報交換が重要な案件です。生徒の不利益とならないよう配慮して進める必要があると考えています。

５　その他

退職校長との交流会を９月１日に４年ぶりに小中合同で開催しました。先輩方の豊かな経験からのお話は非常に参考になりました。さらに、特別支援教育交流会・Web作品展なども行っており、今後も互いに研鑽を積み、進化し続ける田村支会でありたいと考えています。

《学校紹介》

地域と歩む学校づくり

三春町立岩江中学校

岩江中学校は全校生徒133名の学校です。三春町岩江地区内に、岩江小学校と本中学校の１小１中の環境にあります。本校では教育目標に「自立」を掲げ、「自ら気づき・考え・行動し、たくましく自立する生徒」をめざす生徒像としています。

岩江中学校の「強み」として、「三春町の教育」、「魅力ある教科教室経営」、「自立を促す生徒指導」があります。その１つ、「三春町の教育」では「子どもの夢と教師の夢が共に育つ学校づくり」を基本方針とした教育改革を推進しています。実現のための手立ての１つに「地域と歩む学校づくり」があり、岩江地区では地域・家庭に開かれた教育を活発に展開しています。その中心となるのが、「岩江小・中学校学校運営協議会」です。地域・保護者・学識経験者・行政・学校からの委員で構成され、今年度は地区交流館長を会長とした18名で運営しています。地域・保護者の教育力を学校づくりに生かすために、協議会が学校と各種団体とのコーディネイトを積極的に図っています。

主な事業として、学習支援（総合的な学習の時間や防災教育指導）、地区文化祭への参加等を例年行っています。今年度の岩江幼・小・中児童生徒指導連携協議会では、岩江地区在住の埼玉大学名誉教授、庄司康生先生より「幼児・児童・生徒に『育ち』と『学び』を保障するために」のご講演をいただき、「三春の教育」の歴史や強み等を学びました。

これらの事業を通して、岩江地区の児童・生徒の学ぶ機会の最大限の保障や、地域住民の教育に参加する意識の改革に繋げています。今後も、学校と地域・保護者とのニーズがともに満たされる双方向の関係を大事にした学校づくりをめざしていきます。

岩江幼･小･中児童生徒指導連携協議会

（校長　高橋　宏信）

南会津

南会津支会の活動

南会津支会長　我妻雄比古
（下郷町立下郷中学校）

南会津支会は、４つの町村からなり、神奈川県とほぼ同じ面積を有し、７校の中学校長で組織されています。

本会は、校長としての使命と職責の重大さを自覚し、会員の資質向上を図ると共に、県・各町村の教育施策を踏まえ、南会津の風土に根差した特色と活力のある教育活動を推進し、新しい時代にふさわしい教育を創造することを目的としています。また、学校は復興・再生の最大の拠点であるとの認識に立ち、福島県の現状を踏まえつつ郡内の課題に向き合いながら、教育現場の充実に努めています。

１　南会津郡小中学校長協議会の活動

県小中学校長会、会津小中学校長会連絡会、全会津中高校長連絡協議会並びに教育関係団体と緊密な連携を保ちながら、長期的な視野に立ち郡内小中学校教育の進展に努めています。

２　郡中体連行事と今後の部活動に関する意見交換会

郡内の生徒数の減少による郡中体連の運営課題や部活動の地域移行について、各町村の教育長様や関係機関の方々と意見交換をしながら、今後のあり方について共に考える機会を設けました。

３　令和６年度全日中の発表に向けて

令和６年度全日中研岩手大会の第３分科会道徳教育領域で発表を行う予定です。その発表に向け、「校長がどのように関わったか」という視点で、実践の蓄積を行い「ふくしまならでは」の読み物教材である福島県道徳教育資料集の活用、「南会津ならでは」として中山間地域の伝統や地域人材を生かした道徳教育を推進しました。

《学校紹介》

自己肯定感や他者尊重精神を高める教育活動

南会津町立田島中学校

南会津町田島は、かつては会津西街道の主要宿場町として栄え、現在も郡内の中心的役割を担っています。本校はその地に設置され、校地近隣には住宅や商業地があり、市街地の特色が見られます。また学区内には小学校が３つあり、生徒居住地は商業地・新興住宅地・農村地と多岐にわたります。

このような環境からか、昔から様々な価値観を有する家庭が多く、近年さらにその多様化が進んでいます。そこで本校では生徒に集団での一体感（所属感）や自己肯定感を高める必要があると考え、伝統的に発表・表現活動を重視しています。

その一つが「ビブリオバトル」です。国語科の授業を通して全校生徒が参加します。夏休みの読書の成果を、小集団での発表、学級での発表を経て、学級代表を選出、最終的には校内大会決勝戦へと活動の輪を広げます。全校生徒の中での優勝生徒（チャンプ本発表者）は県教育委員会主催の福島県大会への出場権を獲得します。

この活動を通して、生徒たちは相手に自分の思いを伝えようとする意識やスキルを学びます。

他方では、相手の話をよく聞く態度から、他者尊重・他者理解の精神を学び、相手の素晴らしさを賞賛できるようになります。

このことは、異なる価値観を有する生徒がいる中でも、田島中学校の生徒としての一体感を味わうことにもつながると考えています。

お陰様で、この取組の校内優勝発表者たちは、毎年ビブリオバトル県大会（中学生の部）に出場し、令和２年度と令和５年度の２回、県チャンプ本発表者に選ばれました。今後も本校の伝統活動として、取組を続けていきたいと考えています。

（校長　室井　正之）

相　馬

相馬支会の活動

相馬支会長　反畑　増生
（相馬市立向陽中学校）

相馬支会は、新地町・相馬市・南相馬市の11校の中学校及び飯舘村１校の義務教育学校、計12校で組織されています。相馬地方は、東日本大震災及び原子力災害の影響を受け、同一地域にあるとは言え、場所によって大きく異なり、生徒数の極端な減少で存在すら危ぶまれている学校、直面している課題に対応するために新たな形をとらざるを得なかった学校、震災前と変わらぬ規模で教育活動が行われている学校等、各校様々な状況にあります。このような中、今年度「誰一人取り残さない校長会」をスローガンに、小学校長会や隣接している双葉支会と協力しながら、さらなる復興に向け、会員相互の連携を深めるとともに地域の実情に応じた特色ある学校経営の充実に取り組んでいます。

以下、本支会のおもな活動を紹介いたします。

１　研修会の充実

中学校独自の研修会と小学校と合同での協議会をそれぞれ年２回、相双地区の中学校と高校の合同による連絡協議会を年１回実施し、情報交換や各校の課題解決に向けて研修を深めています。

２　双葉支会との連携

震災以降、「相双は１つ」をスローガンに中体連、中教研（今年度から）については合同での活動を行っています。また、令和７年度に浜地区で開催が予定されている第53回県中学校長会研究協議会に向けても相馬支会と双葉支会が連携協力し、開催に向けての準備をスタートさせたところです。

昨年５月の新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行により従来の教育活動を再開しつつあるものの、まだまだ取り組まなければならない課題は山積しています。今後も校長同士の団結をより一層強め、生徒一人一人の自己実現のために鋭意努力してまいりたいと思っております。

《学校紹介》

情報モラルの育成に向けて

新地町立尚英中学校

本校では、令和３年度から県教育委員会の指定を受け、情報モラル教育研究校として実践を積み重ねてきました。最終年となる今年度は、「小中連携」「保護者の巻き込み」をキーワードに研究を推進し、本校生徒の情報モラルの育成を図りました。実践の一部を紹介します。

１　小学校との連携を図った情報モラル教育

○　学級活動「理想的な時間の使い方とは？」

町内の児童生徒の実態調査から、デジタル端末の長時間利用が共通課題となっており、改善に向けて小中合同での授業を実践しました。授業では、一日の生活時間の隙間時間に着目させ、小中学生それぞれの立場から時間の有効活用について考えさせました。時間の有効活用は、将来の進路選択にもつながることから、キャリア教育の視点からの情報モラル教育の在り方についても検証しました。

２　保護者を巻き込んだ情報モラル教育

○　学級活動「SNSの上手な使い方を考えよう」

情報モラルの育成には、保護者の協力が不可欠です。そこで、授業参観の機会に保護者参加型の授業を実践しました。保護者が教室後方で参観しているだけでなく、子どもの隣で一緒に課題について考えたり、廊下に大型モニターを設置して子どもたちの意見や考えをリアルタイムで見たりすることができるようにしました。

３年間の研究成果として、情報モラル教育に計画的・組織的に取り組む校内体制が構築されました。また、教員の指導力も着実に向上しています。

引き続き、本町が先進的に取り組んでいるＩＣＴ活用教育と同様に、全ての教員が自信をもって情報モラルの指導をできるようにしていきます。

（校長　武内　雅之）

随想

「交流はまず足元から」

福島県中学校長会副会長
長谷川　浩　文
（会津若松市立第三中学校）

令和５年６月30日、会津若松市で開催された「第73回東北地区中学校長会研究協議会福島大会」では、発表の田村支会を始め県内の中学校の校長先生方、県事務局の皆様には大変お世話になりました。振り返ると、新型コロナウイルスの影響で先がなかなか見通せない中で準備が始まり、ハイブリッド開催を決定してからもなかなか前に進めない手探りでの約２年間の準備でしたが、現地約100名、オンライン参加約800名をお招きして何とか開催できたこと、改めて感謝申し上げます。そして、会津、南会津の校長先生方39名の団結が深まったのもこの東北大会のおかげです。これからもこの経験を生かしながら、支会の運営、学校経営に当たっていきたいと思います。

さて、若松三中では、11月16日にドイツの元大統領クリスティアン・ヴルフ氏ご一行をお招きし、交流会を行ないました。一行は、福島県内では、本校といわきの豊間中の２校を訪問されました。なぜドイツの元大統領が会津に来たのかというと、明治時代の「松江豊寿（とよひさ）」という人物から始まっています。

豊寿は、旧会津藩士の息子として、戊辰戦争直後の明治５年、会津若松に生まれました。そのころ会津は大変な時代であったでしょう。その後豊寿は陸軍の軍人として日清、日露戦争に従軍、大正６年より徳島県の板東俘虜（ふりょ）収容所長になり、その後若松市の市長となりました。

その板東俘虜収容所（今の鳴門市にあった）には、第１次世界大戦で敗れたドイツ軍の俘虜（捕虜）が収容されていました。豊寿は俘虜たちをできる限り人道的に扱い、地域の人々も俘虜に手厚く接し、また、ドイツ兵も自分たちが持っていたパンやお菓子作りなどの技術を地域の人に教えたりしてたくさんの交流が生まれ、その中でドイツ兵がベートーベンの「第九交響曲」を日本で最初に演奏したと言われており、このいきさつは、映画『バルトの楽園（主演　松平健）』に描かれています。この松江豊寿の百年前の縁で、そのふるさとである会津に元大統領が来られ、中学生と交流をすることになりました。

ドイツは連邦制国家で、国家元首が大統領で主に儀礼的なものや外交面での仕事をし、行政のトップが首相だそうです。その元「大統領」をどのようにお招きし、生徒たちとどう交流するかを考えた結果、「合唱」でお迎えしようということになりました。本校は「あいさつと歌声の響く学校」という言葉に象徴されるように昔から合唱が盛んで、生徒たちは文化祭では美しい歌声を響かせます。交流会当日は、授業参観の後、第九の「歓喜の歌」を全校で歌い、文化祭に向けて仕上げた学年合唱と校歌を披露し、通訳をとおして元大統領に質問をしたりメッセージをいただいたり、一緒に給食を食べたりして楽しい交流になりました。元大統領からは、「ドイツ人が日本人に教えた歓喜の歌を、日本人がドイツ人のために歌ってくれて感慨深かった。」との感想をいただきました。

そして私は、生徒たちには、本校のスローガン「世界に貢献する三中生」にからめながら、元大統領の来校を世界に目を向けるきっかけにしてほしいという話をしました。

私はＳＰが二人つくような元大統領の来校と豊寿の一生から、リーダーとはどうあるべきかを考えさせられました。元大統領は、生徒からの「リーダーになるための資質は何か。」との質問には、「相手へ敬意を払い、違った意見や考えを受け入れる姿勢が大切だ。」と述べられ、元大統領の優しいまなざしと、言葉一つ一つから感じられる強い信念が印象的でした。そして、豊寿の一生からは、戊辰戦争で敗れ苦労した会津人だからであろう、人を尊重する精神、そしてリーダーとしての誇りと優しさを感じます。だからこそ、今でもドイツや鳴門の人たちに慕われるのでしょう。そのうえこの交流会で戊辰戦争や俘虜収容所など過去を振り返るだけではなく、過去の縁やつながりをきっかけに現代の新たな交流や結びつきができたことは、百年前の豊寿からの贈り物です。

さて、元大統領をお迎えするにあたって準備を重ねてきましたが、当日どうしても対応できなかったことがありました。それは、ＳＰの方の足が大きく、学校のスリッパに足が入らなかったのです。歌やあいさつは立派にできましたが、足元をすくわれてすっかりあわててしまいました。これから特に外国の方をお迎えするときには、足元まで十分注意したいと思った一日でした。

（一財）福島県教育会館　事業ご案内
福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。
●夏休みの友　●福島県立高校入試問題集　●福島県書きぞめ展　●教育関係者名簿　◆貸し会議室（教育関係者は半額）
福島市上浜町10-38　office@kyouikukaikan.jp　TEL 024-523-0206　FAX 024-523-0208
福島県中学校長会ホームページはこちらのQRコードから

■発行　福島県中学校長会　〒960-8107 福島市浜田町４番地16号 富士ビル２Ｆ　電話 024(534)5320
■編集　井上明浩・川名健一・佐藤秀克　■印刷　㈲吾妻印刷